



本校舎中学部 学部行事や授業での活動の様子を紹介します

学部集会 5月の学部集会では、学部の生徒全員が集まり、「人間オセロ」と「玉転がし」のゲームを行いました。みんなでわいわい盛り上がりました。



校外学習 6月の校外学習では公用車やタクシーを利用して、Ⅰ課程は神崎市役所と名尾手すき和紙、Ⅱ課程は佐賀広域消防局と名尾手すき和紙、Ⅲ課程は洋菓子屋に行きました。



校内レクリエーション大会 コロナ禍で社会見学が実施できなかったので、校内レクリエーションを行い、「猛獣狩り」と「ポッチャ」をしました。



本分中学部交流会 分校舎の中学部とリモートで交流会を行い、お互いに自己紹介しました。



体育・生活単元学習 中学部の中庭にビニールプールを設置し、水遊びを行いました。



～研修・研究部より～

職員の専門性向上のための取り組み

本校は、県内唯一の肢体不自由教育単置校です。通例の研修に加え、各学部において年3回の自立活動の研修会等、肢体不自由教育に特化した職員研修を行っています。また、食物アレルギーへの対応、緊急時の対応等の実践的な研修もあります。摂食指導や発達障害に関する研修等、内容によっては外部から講師を招き実施します。そういった研修には、県内の特別支援学校や、小・中・高等学校、幼稚園、保育園等からも参加があり、地域のセンター的役割を担っています。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響があり、研修を行うに当たっては、小グループやリモート等、参加形態を工夫しながら各研修会の企画・運営に取り組んでいます。

～相談支援部より～

本校では、児童生徒一人一人のよりよい指導支援のために、児童生徒本人、保護者、職員が気軽に相談できる学校づくりに努めています。今回は支援会議についてご紹介します。



① 『個別の教育支援計画』作成のための支援会議

「個別の教育支援計画」は、入学から卒業後までの長期的な視点で、一貫して適切な教育的支援を行うことを目的として作成するものです。その作成にあたって、児童生徒を中心とした関係機関の方々と連携し、情報と支援を共有するため、現在から将来を見通した指導支援の在り方について話し合ったり、お互いの役割を確認したりする支援会議を行っています。

② 「個別のニーズ」に応じた支援会議

個別のニーズに応じて開く支援会議です。関係者間で課題を共有したり、必要に応じて行政や福祉や医療等の新たな関係機関と連携を図ったりしていきます。また、「佐賀県障害のある子どもの学校生活支援事業」（巡回相談）を利用し、他の特別支援学校等から専門的な助言を受けることもできます。お気軽に、相談支援部までお声かけ下さい。

～進路指導部より～

○卒業生の進路先紹介

本校高等部生徒の卒業時の主な進路先は、「障害福祉サービスの利用」、「就職」、「進学」です。平成 21 年度から昨年度までの卒業生は 171 人で、「障害福祉サービスの利用」は 152 人、「就職」は 11 人、「進学」は 2 人です。また、6 人が商業能力開発校や障害福祉サービスの日中一時支援だけの利用などです。

また、「障害福祉サービスの利用」を分けると、余暇活動や食事、入浴などのサービスがある「生活介護事業所」（医療が関わる「療養介護」を含む）の利用が 118 人で、はたらく活動をする「就労継続支援 B 型事業所」の利用が 28 人です。近年は、グループホームに入居し進路先に通うケースも増えてきました。

○高等部生徒の進路決定と移行支援会議

高等部卒業生の進路は、主に就業・施設体験（就業体験と表記します）をとおして決まっています。就業体験は2週間の期間を設定して1年に2回行っています（※就業体験を行わない生徒は校内で授業を受けます）。また、就業体験は希望の進路先に進めるように進路希望をもとに計画的に行っています。今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けていますが、一人一人個別に対応しています。

高等部3年の秋から年末にかけて進路先が内定し、1～2月に、進路先への円滑な移行を目的とした「移行支援会議」を個別に行います。この会議には、進路先によって違いはありますが、卒業後も深く関わっていただく方々（進路先が「障害福祉サービスの利用」の場合は計画相談の担当の方や市町役場の担当の方など）にも出席していただき、今後も必要となる支援等についての確認などもしていただいています。

佐賀県立 金立特別支援学校

〒849-0906
佐賀市金立町大字金立 2339-2
TEL (0952) 98-1135
FAX (0952) 71-8001
URL <https://www.education.saga.jp/hp/kinryutokubetsushien/>

